

## 令和元年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市民ネット・むろらん
議員名	水江 一弘・児玉 智明・小田中 稔・佐藤 潤・高橋 直美 長岡 充洋・滝口 紘子
調査実施年月日	令和元年7月30日（火）
調査先 自治体名等	香川県 高松市
調査項目	瀬戸内国際芸術祭について
調査目的	瀬戸内国際芸術祭の開催による経済波及効果について
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先（市町村）の概要 人口： 417,606人（R元.4.1 現在） 行政面積 375.53 km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容</p> <p>瀬戸内国際芸術祭は世界的に著名な公益財団法人福武財団が総合プロデューサー、北川フラム氏が総合ディレクターとなって瀬戸内海に面する地域や点在する島々を舞台として2010年以降3年に一度開催されており、今回が4回目となる。2019年は春4, 26（金）～5, 26（日）、夏7, 19（金）～8, 25（日）、秋9, 28（土）～11, 04（月）の日程で12の島と2つの港を会場に231組（32の国と地域）214作品・35イベント（R元, 7, 18現在）で構成・開催されている。誘客のメイン施設は直島にある安藤忠雄氏設計の地中美術館であり、観光客のほとんどがこの施設を訪れている。</p> <p>運営は実行委員会形式で香川県知事が会長となり高松市は実行委員会に参加している。今回の開催に当たっては平成29年度から準備が進められており、総予算1,276,000(千円)の内、今年度の予算措置も含めた高松市の財政負担は3か年合計で138,113(千円)であり、このほかに県の実行委員会への職員派遣を行っている。</p> <p>香川県の瀬戸内海に浮かぶ島々は本州四国連絡橋が開通して以来、特に人口減少・高齢化が進み、島に活力を取り戻したいとの思いから取り組みに参画したとのことである。</p> <p>2019春会期の来場者は38万人で2016年の25万4000人から増加傾向で、インバウンドも着実に増加しているとのこと、内陸部の観光地への波及効果もあるとのことである。</p> <p>経済効果については2016年開催の報告書には交流人口増加による域内の宿泊施設への効果は認められたが、さらに具体的</p>

	<p>な効果については調査できなかった。香川県への移住者は2014年以降増加しており、高松市へは2016年177人、2017年183人、2018年290人と増加傾向である。担当者の話ではもともと災害が少なく温暖な気候で自然豊かな住みよい土地柄が芸術祭の開催によって全国的に注目を浴びたのでは、とのことである。また、3年に一度、観光客が集中するため、簡易宿泊施設を運営する若年層の移住者もいるとのことである。</p>
<p>感想（まとめ） 本市へ生かせること等</p>	<p>本市のまちづくりにとって交流人口や定住人口の増加への取り組みは最重要課題である。</p> <p>本市は今年度、新たな観光振興計画策定の作業を進めているが、今後の観光活動の推進に当たっては着地型観光を意識した視点が重要であることから、世界的な著名人が手掛ける芸術祭の開催は極めて魅力的である。</p> <p>今後、本市が開催に向けた取り組みを本格化させるのであれば北川フラム氏は以前、本市を訪れていることから、まずは市民全体の機運を高め、示していくことが必要と感じた。</p>